

揖斐川町や本巢市の近辺では、富有柿が収穫の時期を迎え、幹線道路からも橙色の実をつけた果樹林を沢山見ることが出来ます。越美山系砂防事務所では、奥越豪雨により大崩壊が発生した根尾白谷について、3回目の里山探検隊の行程の中で訪れ、災害規模を実感していただき、また事務所職員により、根尾川源頭部の調査を実施しました。

奥越豪雨・濃尾地震の爪跡を訪れる ～里山探検隊～

今年度第3回目の里山探検隊を10月28日に実施しました。「根尾川筋における土砂・地震災害から学ぶ」をサブテーマに、本巢市の根尾川流域を訪れました。

道中、50年前の奥越豪雨にて大崩壊を起こした根尾白谷に足を運び、災害規模の大きさを目の当たりにしました。また、1891年(明治24年)の10月28日に発生した、国内最大規模の直下型地震である濃尾地震の原因である根尾谷断層を訪れ、ボランティアガイドの方に説明を頂きました。近くの地震断層観察館では、3Dシアターでの地震体験など、地震の様々な影響について学びました。最後に事務所にて閉校式を行い、今年度の里山探検隊の活動を無事に終了しました。



根尾白谷の麓より大崩壊を眺める

大崩壊から50年を経た源頭部を調査 ～根尾白谷～

昭和40年の奥越豪雨により、本巢市の根尾白谷で大規模な崩壊が発生してから、今年で50年が経過しました。当事務所では10月30日に、根尾川源頭部(谷の最上流、尾根に到達する場所)の現地調査を行いました。

《大崩壊発生当時の様子や、その後の対策については、下記の「奥越豪雨」の記事で述べていきます》
麓から登り始めた当初は、大崩壊の後、いくつもの谷止や堰堤を設置する際に整備した工事用道路の跡を辿る事ができましたが、登り始めて10分程度で藪に消えてしまいました。その後は小さな沢に沿ったり、対岸へ渡ったり、登れる所を探しながら、最上部の谷止まで辿り着きました。谷止の周辺では、大崩壊時に転がったのか、最大で直径2m程の大きな石が沢山積まれていました。

谷止より上部へは、斜度も急で登る手段が見当たらず、今回は危険と判断して、下山をしました。麓から源頭部は見えませんが、進むのに予想以上に時間が掛かり、自然の回復力を実感させられました。



敷原谷第1砂防堰堤を見学



ボランティアガイドの方による
根尾谷断層の説明



最上部の谷止付近を登る



レーザー距離計で
源頭部までの距離を計測

昭和40年(1965)災害 / 『奥越豪雨』 ⑭

根尾白谷の大崩壊 ①

崩壊面積 : 85,000m² 崩壊土砂量 : 1,070,000m³

場所 : 岐阜県本巢郡根尾村《現本巢市》, 根尾西谷川右支川八谷の小左支、白谷の源頭部

発生日 : 昭和40年(1965)9月15日

誘因 : 台風24号の接近で活発化した秋雨前線による豪雨

八谷は馬坂峠付近に源を発し、東南東へ流れ根尾西谷川へ合流する、流路長 5.8km・平均河床勾配 1/17.4・流域面積 21.6km² の支川である。最上流部と最下流部を除き、活断層に沿った直線的な谷である。

流域の地質は美濃帯の中～古生層であり、泥岩が主体で泥質混在岩、チャートを含み、上流域の一部には石灰岩が分布している。根尾白谷大崩壊地付近では、上部に石灰岩、下部に泥質混在岩(キャップロック構造)が分布している。

《→前ページより》

発生日時の正確な記録はないが、後日の聞き込み記録によると、15日正午頃、大音響とともに崩れたということである。

崩壊地の形状は、起伏量 269m・水平斜面長 335m・面積 85,000m²・平均崩壊深 13m・平均傾斜 39° であり、斜面下方に向かって幅が狭くなっている。西隣の斜面には古い大規模崩壊の痕跡がある。脚部には、大規模なブロック状の崩壊土砂が残っている。

崩壊の原因には、地質の構造が挙げられる。上部の石灰岩は浸食されにくく、山頂は平坦な尾根を形成している。一方、下層の泥質混在岩まで切り込んだ谷は、泥質混在岩が浸食されやすいため深く刻まれる。その結果、谷底と山頂の間に急斜面が形成され、大規模崩壊が起こりやすくなっていた。さらに、透水性の大きい石灰岩の下層に地下水が浸透して溜まり、それが谷壁から湧出して崩壊を誘発したと考えられる。

〈つづく〉



山肌をえぐる大崩壊の様子



怒濤のような土石流

出典：越美山系災害史（原文）
《 》はクマタカ通信転載にあたっての補足箇所

発行：越美山系砂防工事事務所
平成10年10月

地元大学が砂防事業に興味津々

(株)久保田工務店と当事務所により、砂防事業や建設業についての見聞を広めるため、岐阜大学工学部社会基盤工学科から併せて19名の学生及び教員の方々を対象に、10月13日に揖斐川町坂内地区において現場見学会を実施しました。

土屋出張所長から、砂防事業の概要について説明を行った後、八草山腹工事及び大谷川第3堰堤道路工事の現場見学や、安全帯を使った法面作業体験、重機の試乗などを行って頂きました。

林道の付替工事が進む = 高地谷 =

揖斐川町小津(おづ)地先で行う、高地谷第1砂防堰堤道路工事は、高地谷で新たに整備を進める砂防堰堤により林道が寸断されるため、林道の付替工事を行っています。

施工箇所は不安定な崩壊跡地での法面安定化、高所で急斜面な地形での道路構築など延長1kmを越える道路工事も順調に進み終盤を迎えており12月末には新たな林道が完成する予定です。

施工は西濃建設(株)が行っています。



土屋出張所長より事業説明



安全帯での法面作業体験



林道付替の施工箇所



急斜面で道路造成

みんなで川を清潔に ～クリーン大作戦～

10月24日に「川と海のクリーン大作戦」が催され、当事務所からも5名が参加して、揖斐川の岡島橋付近で河川敷の清掃活動に取り組みました。あまりゴミが落ちていない場所もありましたが「あまり拾っていないな」と思われても、落ちているゴミは少ないに超したことはないですね。



爽やかな秋晴れの中
活動できました

※法人については文中敬称略



クマタカ通信をメール配信します。配信希望の方は下記宛に「配信希望」とメールを送信して下さい。
また、クマタカ通信の感想やご意見もお待ちしています。

発行 国土交通省中部地方整備局
越美山系砂防事務所 揖斐川砂防出張所
〒501-0619 岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪2303-3
Tel: 0585-22-3526 Fax: 0585-22-6626
E-mail: ibigawasabo@cbr.mlit.go.jp